

参 考

総 括

厚生労働省 健康局 疾病対策課

1. 厚生労働省におけるリウマチ・アレルギー
対策について…………… 161
2. 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業
について…………… 163
3. リウマチ・アレルギー疾患に係わる
ガイドラインについて …… 168
4. リウマチ科・アレルギー科を標榜する
病院及び診療所数について…………… 170
5. アレルギーの現状について
…………… 171
6. インターネットによる情報収集について
…………… 172

1

厚生労働省における リウマチ・アレルギー対策について

はじめに

リウマチ、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、花粉症等のリウマチ・アレルギー疾患を有する患者は、国民の30%にのぼると言われており、放置出来ない重要な問題となっている。

厚生労働省では、平成17年10月に今後のリウマチ・アレルギー対策を総合的・体系的に実施するため、「リウマチ対策の方向性等について」、「アレルギー疾患対策の方向性等について」を策定し、都道府県等、関係団体等に通知したところである。

また、平成2年度からリウマチ疾患について、平成4年度からアレルギー疾患についての総合的な研究事業を開始し、病因及び病態の解明、治療法等の研究の推進を図ってきたところである。これらの研究成果として、免疫アレルギー疾患の診療に関するガイドライン等を随時作成及び改訂し、医療関係者に対する適切な診断・治療方法の普及啓発に努めてきたところである。

○免疫アレルギー疾患に関する研究等の推進

リウマチ、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、花粉症等の免疫アレルギー疾患の発症原因と病態との関係を明らかにし、予防、診断及び治療法に関する新規技術を開発するとともに、既存の治療法の再評価を行うことにより、国民に対してより適切な医療の提供をおこなうこととしている。

○免疫アレルギー疾患に関する正しい情報の普及

免疫アレルギー疾患に関しては、民間療法も含め膨大な情報が氾濫しており、正しい情報の取捨選択が困難な状況であることから、正しい情報の普及を強化することを目的として、厚生労働省ホームページ内に「リウマチ・アレルギー情報」サイトを開設し、随時更新しているところである。さらにシンポジウムの開催、パンフレットの配布等の普及啓発事業を実施することとしている。

地域における相談体制を整備するために、平成13年度より保健師等従事者を対象とした相談員の養成研修会を実施しているところである。

また、平成19年度からはアレルギー相談センターを開設し、普及啓発事業のより一層の充実を図っているところである。

○免疫アレルギー疾患に関する医療の提供

アレルギー疾患関連で死亡する者のうち、約99%が喘息による死亡となっており、喘息死対策は喫緊の課題といえる。そこで喘息死を減少させることを目的とした喘息死ゼロ作戦を実施することとしている。

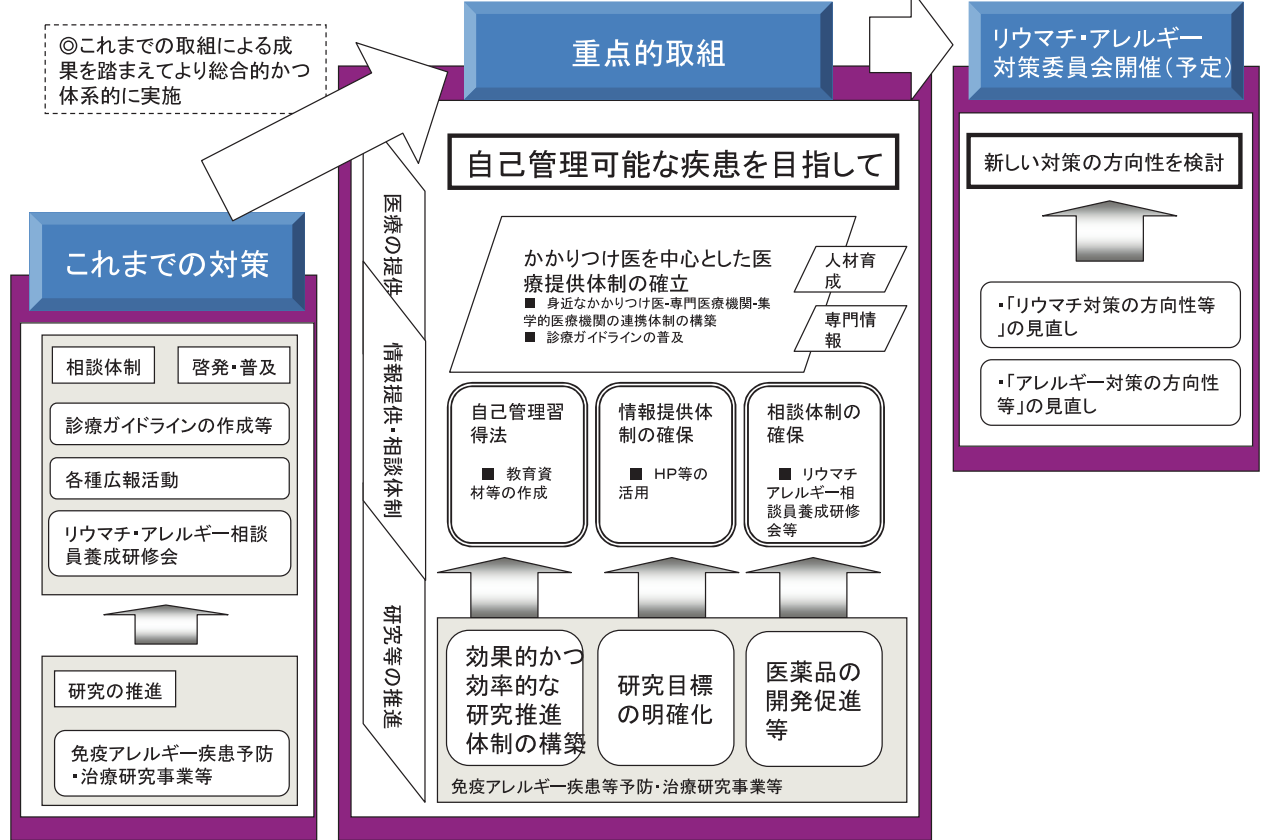
主な事業内容は、地域医療連絡協議会の設置、かかりつけ医を中心とした医療連携体制の確保を推進するなど適切な医療の提供をおこなうこととしている。

○予算について

平成22年度予算においては、総額10億3,000万円を計上しているところである。

リウマチ・アレルギー対策について

(平成22年度)



2

免疫アレルギー疾患等予防・治療 研究事業について

はじめに

厚生労働省では、従来よりリウマチ・アレルギー疾患に関する研究を実施していたが、平成2年度から「リウマチ調査研究事業」、平成4年度から「アレルギー総合研究事業」として総合的な研究事業に再編成され、病因及び病態の解明、治療法等の研究の推進を図ってきたところである。

また、平成9年度からは、厚生労働科学研究の一研究事業として組み入れることにより、研究事業の位置づけの確立および内容の拡充を図り、平成14年度からは「免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業」として、より総合的な研究事業に再編成された。

さらに、平成20年度より移植医療にかかる研究を組み入れ「免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業」に名称変更をしている。

○厚生労働科学研究について

厚生労働科学研究費補助金は、「厚生労働科学研究の振興を促し、もって、国民の保健医療、福祉、生活衛生、労働安全衛生等に関し、行政施策の科学的な推進を確保し、技術水準の向上を図ること」を目的としている。独創的又は先駆的な研究や社会的要請の強い諸問題に関する研究について、競争的な研究環境の形成を行いつつ、厚生労働科学研究の振興を一層推進する。外部の専門家の意見や行政上の必要性等を踏まえ、研究事業毎に「目的志向型の研究課題設定」を行い、その上で原則として公募により研究課題及び研究班を募集し、評価委員会の評価を経て、採択を決定している。厚生労働科学研究費補助金の審査は、「厚生労働省の科学研究開発評価に関する指針」に基づき行われている。提出された研究開発課題は、各研究事業の評価委員会で、専門家による専門的・学術的観点と、行政担当部局の行政的観点から評価される。採択課題や採択額等については厚生労働省ホームページで示している。（<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkyuu/jigyuu/hojokin.html>）

研究報告書は、担当課（室）が保管するとともに、国立国会図書館、厚生労働省図書館、国立保健医療科学院の厚生労働科学研究成果データベースホームページで公開されている。（<http://mhlw-grants.niph.go.jp/>）

○免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業について

リウマチ、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、及び花粉症などの免疫アレルギー疾患は、長年にわたり生活の質を低下させるため、国民の健康上重大な問題となっている。このためこれらの疾患について、発症原因と病態との関係を明らかにし、予防、診断及び治療法に関する新規技術を開発するとともに、自己管理方法や治療法の確立を行うことにより、国民に対してより良質かつ適切な医療の提供を目指す。

また、造血幹細胞や臓器移植をはじめとする移植医療は、宿主との免疫応答が問題となるほか、ドナーを必要とするという観点から、その推進のためには社会的基盤を構築する必要がある。こうした社会的基盤を確立し、免疫寛容をコントロールすることにより、良質かつ安定的な移植医療の提供を目指す。

（平成22年度厚生労働科学研究費補助金公募要項より引用）

○平成22年度の研究班構成（別表）

平成22年度免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 採択課題一覧

番号	研究者等名	所属研究機関	役職	研究課題名	研究開始年度	研究終了年度
1	田中 良哉	学校法人産業医科大学医学部第1内科学講座	教授	関節リウマチの関節破壊ゼロを目指す治療指針の確立、及び根治・修復療法の開発に関する研究	20	22
2	越智 隆弘	大阪警察病院医務部	院長	関節リウマチ骨髓血中の疾患誘導因子解明と根治療法開発研究	20	22
3	大久保 公裕	日本医科大学耳鼻咽喉科	准教授	リアルタイムモニター花粉数の情報のあり方の研究と舌下ペプチド・アジュバント療法の臨床研究	20	22
4	古江 増隆	九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野	教授	アトピー性皮膚炎のかゆみの解明と治療の標準化に関する研究	20	22
5	谷口 正実	独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センター	気管支喘息研究室長（統括診療部内科系診療部長・アレルギー科医長兼任）	NSAIDs不耐症の病態解明と診断治療指針作成に関する研究	20	22
6	住田 孝之	筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻臨床免疫学	教授	免疫疾患の病因・病態解析とその制御戦略へのアプローチ	20	22
7	當間 重人	独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センター	リウマチ性疾患研究部長	関節リウマチ患者の現状と問題点を解析するための多施設共同疫学研究	20	22
8	横田 俊平	横浜市立大学医学研究科発生成育小児医療学	教授	小児期のリウマチ・膠原病の難治性病態の診断と治療に関する研究	20	22
9	岡 寛	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター	教授・センター長	線維筋痛症の発症要因の解明及び治療システムの確立と評価に関する研究	20	22
10	須甲 松信	東京芸術大学保健管理センター	教授	ユビキタス・インターネットを活用したアレルギー疾患の自己管理および生活環境改善支援システム、遠隔教育システム、患者登録・長期観察システムに関する研究	20	22
11	山中 寿	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	所長・教授	免疫アレルギー疾患の予防・治療法の開発及び確立に関する臨床研究：関節リウマチ患者の生命予後からみた至適医療の確立に関する臨床研究	20	22
12	一ノ瀬 正和	和歌山県立医科大学医学部内科学第三講座	教授	気道炎症モニタリングの一般臨床応用化：新しい喘息管理目標の確立に関する研究	20	22

13	秋山 一男	独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センター	副院長（臨床研究センター長併任）	免疫アレルギー疾患予防・治療研究に係る企画及び評価の今後の方向性の策定に関する研究	20	22
14	森島 泰雄	愛知県がんセンター中央病院血液・細胞療法部	副院長・血液・細胞療法部長	組織適合性に基づく非血縁同種造血幹細胞移植の成績向上に関する研究	20	22
15	加藤 俊一	東海大学医学部	教授	臍帯血を用いる造血幹細胞移植技術の高度化と安全性確保に関する研究	20	22
16	谷口 修一	国家公務員共済組合連合会虎の門病院血液内科	部長	同種造血幹細胞移植成績の一元化登録と国際間の共有およびドナーとレシピエントのQOLを視野に入れた成績の向上に関する研究	20	22
17	宮村 耕一	名古屋第一赤十字病院血液内科	部長	同種末梢血幹細胞移植を非血縁者間で行う場合等の医学、医療、社会的基盤に関する研究	20	22
18	中畑 龍俊	京都大学物質・細胞統合システム拠点iPS細胞研究センター	特定拠点教授	新たな移植細胞療法に向けた造血幹細胞のex vivo増幅技術の開発と応用	20	22
19	小澤 敬也	自治医科大学医学部	教授	間葉系幹細胞を利用した新しい造血幹細胞移植技術の開発に関する研究	20	22
20	高原 史郎	大阪大学大学院医学系研究科先端移植基盤医療学	寄附講座教授	腎臓移植の成績向上をめざした臨床データ解析を目的とした症例登録と追跡制度の確立並びにドナー及びレシピエントの安全性確保とQOL向上に関する研究	20	22
21	福嶋 教偉	大阪大学大学院医学系研究科薬理学分野	准教授	脳死並びに心停止ドナーにおけるマージナルドナーの有効利用に関する研究	20	22
22	小中 節子	社団法人日本臓器移植ネットワーク医療本部	理事・医療本部長	脳死下・心臓停止下臓器幹旋のコーディネートに関する研究	20	22
23	篠崎 尚史	東京歯科大学市川総合病院角膜センター	センター長	臓器移植の社会的基盤整備に関する研究	20	22
24	中村 義一	東京大学医科学研究所	教授	関節リウマチに対するアプタマーRNA新薬の開発	21	23
25	中江 進	国立成育医療センター研究所免疫アレルギー研究部	部長	新しい制御性T細胞体外増幅法による喘息治療法の開発：ぜん息の治療法の開発及び確立に関する研究	21	23
26	清水 宏	北海道大学大学院医学研究科皮膚科学分野	教授	アトピー性皮膚炎の予防・治療法の開発及び確立に関する研究	21	23

27	森 晶夫	独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センター	先端技術開発研究部長	重症・難治性喘息の病因・病態の解明に関する研究	21	23
28	海老澤 元宏	独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部	アレルギー性疾患研究部長	食物アレルギーの発症要因の解明および耐性化に関する研究	21	23
29	大田 健	帝京大学医学部内科学講座呼吸器・アレルギー学	教授	アレルギー疾患の予後改善を目指した自己管理および生活環境改善に資する治療戦略の確立に関する研究	21	23
30	中山 俊憲	千葉大学大学院医学研究院	教授	スギ花粉症に対する舌下免疫療法の有効性、効果予測法の確立研究	21	23
31	寺岡 慧	東京女子医科大学	教授	抑制性T細胞類似の細胞による免疫寛容誘導の試み	21	23
32	竹内 勤	慶應義塾大学医学部	教授	関節リウマチに対する生物学的製剤の作用機序、投与方法、治療効果等に関する研究	22	24
33	斎藤 博久	国立成育医療センター免疫アレルギー研究部	部長	適切なスキンケア、薬物治療方法の確立とアトピー性皮膚炎の発症・増悪予防、自己管理に関する研究	22	24
34	天谷 雅行	慶應義塾大学医学部	教授	皮膚バリア障害によるアレルギーマーチ発症機序解明に関する研究	22	24
35	小笠原 康悦	東北大学加齢医学研究所分化・発達医学研究部門加齢生体防御学研究分野	教授	金属アレルギーの革新的診断・予防・治療法の開発研究	22	24
36	福井 裕行	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授	アレルギー疾患感受性遺伝子であるヒスタミンH1受容体遺伝子の発現抑制作用を持つ天然物を用いる治療戦略	22	24
37	赤澤 晃	国立成育医療センター総合診療部小児期診療科	医長	アレルギー疾患の全国全年齢有症率および治療ガイドライン普及効果等疫学調査に基づく発症要因・医療体制評価に関する研究	22	24
38	岩田 力	東京家政大学家政学部児童学科	教授	食物アレルギーにおける経口免疫療法の確立と治癒メカニズムの解明に関する研究	22	24
39	赤司 浩一	九州大学大学院医学研究院	教授	純化自己幹細胞移植術による難治性自己免疫疾患治療の免疫再生メカニズムに関する研究	22	24
40	池原 進	関西医科大学医学部	教授	灌流法により採取された骨髄細胞を用いた骨髄内移植治療法：基礎から臨床へ	22	24

41	藤堂 省	北海道大学大学院医学研究科消化器外科・一般外科分野	教授	制御性T細胞治療による臨床肝移植における免疫寛容誘導法の開発	22	24
42	糸満 盛憲	北里大学医学部	教授	より安全で良質な同種骨を供給するための社会基盤整備	22	24
43	國澤 純	東京大学医科学研究所	講師	食餌性脂質を中心とした生理活性脂質による粘膜免疫制御ならびにアレルギー疾患との関連解明	20	22
44	粒来 崇博	独立行政法人国立病院機構相模原病院アレルギー科	医師	気管支喘息の診断、治療判定のための簡便な指標としての簡易な気道炎症マーカーの検討ー呼気NO測定オフライン法のかかりつけ医での応用の可能性ー	20	22
45	藤 秀人	国立大学法人長崎大学医学部歯学部附属病院薬剤部	准教授	抗リウマチ薬の時間薬物療法の確立	20	22
46	進藤 英雄	東京大学大学院医学系研究科	助教	新規生体膜生合成酵素と生理活性脂質（PAF）生合成酵素の機能解析	20	22
47	大島 久美	自治医科大学医学部	助教	薬物治療モニタリングによる造血幹細胞移植成績の向上に関する研究	20	22
48	阿部 理一郎	北海道大学北海道大学病院	講師	患者末梢血を用いた重症薬疹モデルマウスの作成および発症機序の解明	21	23
49	石井 優	独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター臨床研究部・リウマチ科	主任研究員・医師	細胞遊走・ケモカインを標的とした生体イメージングと数理シミュレーションを駆使した新しい関節リウマチ治療薬の開発	21	23
50	吉富 啓之	京都大学大学院医学研究科	助教	ヒト関節リウマチ特異的CD4陽性細胞および血漿・関節液miRNAの同定と治療・診断への応用	22	24

3

リウマチ・アレルギー疾患に係る ガイドラインについて

はじめに

厚生労働省においては、厚生労働科学研究の中で、リウマチ・アレルギー疾患の診療ガイドライン等の学会等への作成支援を行い、医療従事者や一般国民に対する普及啓発に努めているところであり、以下にその一覧を示す。

○関節リウマチに関するガイドライン

『関節リウマチの診療マニュアル(改訂版) 診断のマニュアルとEBMに基づく治療ガイドライン』(***)

発行：平成16年4月

作成：厚生労働省研究班

編集：越智 隆弘(相模原病院院長) 他

○アトピー性皮膚炎に関するガイドライン

『アトピー性皮膚炎治療ガイドライン2005』(*)

発行：平成17年

作成：分担研究「アトピー性皮膚炎治療ガイドラインの作成」

監修：河野 陽一(千葉大学大学院医学研究院小児病態学教授)

山本 昇壯(広島大学名誉教授)

『アトピー性皮膚炎—よりよい治療のためのEBMデータ集』(*)

発行：平成17年

作成：古江 増隆(九州大学大学院医学研究院皮膚科学教授)

○気管支喘息に関するガイドライン

『科学的根拠に基づく(EBM)喘息診療ガイドライン』(**)

発行：平成13年

作成：宮本 昭正(日本臨床アレルギー疾患研究所長・東京大学名誉教授)

『EBMに基づいた抗喘息薬の適正使用ガイドライン』(**)

発行：平成13年7月

作成：厚生労働省医療技術評価総合研究喘息ガイドライン班

監修：宮本 昭正(日本臨床アレルギー疾患研究所長・東京大学名誉教授)

『一般臨床医のためのEBMに基づいた喘息治療ガイドライン』(***)

発行：平成16年3月

作成：宮本 昭正(日本臨床アレルギー疾患研究所長・東京大学名誉教授) 他

『EBMに基づいた患者と医療者のパートナーシップのための喘息診療ガイドライン(小児用)』(***)

発行：平成16年3月

作成：宮本 昭正(日本臨床アレルギー疾患研究所長・東京大学名誉教授) 他

『EBMに基づいた患者と医療者のパートナーシップのための喘息診療ガイドライン(成人編)』(**)

発行：平成16年3月

監修：宮本 昭正(日本臨床アレルギー疾患研究所長・東京大学名誉教授)

『喘息予防・管理ガイドライン2003』(*)

発 行：平成15年10月

作 成：厚生省免疫・アレルギー研究班

監 修：牧野 荘平（東京アレルギー疾患研究所・獨協医科大学名誉教授）

古庄 巻史（市立岸和田市民病院長 現こくらアレルギークリニック）

宮本 昭正（日本臨床アレルギー疾患研究所長・東京大学名誉教授）

西間 三馨（国立療養所南福岡病院）

○アレルギー性鼻炎に関するガイドライン

『鼻アレルギー診療ガイドライン 2002年版（改訂第4版）』(**)

発 行：平成14年3月

作 成：鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会

編集顧問：奥田 稔（日本医科大学名誉教授）

『鼻アレルギー診療ガイドライン—通年性鼻炎と花粉症—2005年版（改訂第5版）』(**)

発 行：平成17年10月

作 成：鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会

編集顧問：奥田 稔（日本医科大学名誉教授）

○食物アレルギーに関するガイドライン

『食物アレルギーの診断の手引き2005』(*)

発 行：平成17年

作 成：「食物アレルギー診療の手引き」検討委員会

監 修：海老澤 元宏（相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部）他

『食物アレルギーの栄養指導の手引き2008』(*)

発 行：平成20年

作 成：「食物アレルギーの栄養指導の手引き2008」検討委員会

監 修：今井 孝成（相模原病院小児科）

『食物アレルギーの診療の手引き2008』(*)

発 行：平成20年

作 成：「食物アレルギーの診療の手引き2008」検討委員会

監 修：海老澤 元宏（相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部）

(*) 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業による

(**) 医療技術評価総合研究事業による

(***) 医療技術評価総合研究事業において作成したものを学会等において改訂

4

リウマチ科・アレルギー科を標榜する 病院及び診療所数について

はじめに

医師が標榜とする診療科名は少なくとも医師が関心を持つ診療領域を指すものであり、患者が医療機関を受診する際の選択の目安となる。

平成8年、医療法の定める標榜科として「リウマチ科」「アレルギー科」が新設されたが、その数の推移について以下にその概要を示す。

調 査 年	リウマチ科		アレルギー科	
	病院数	診療所数	病院数	診療所数
平成8年	254施設	1,089施設	99施設	880施設
平成9年	475施設	—	205施設	—
平成10年	558施設	—	240施設	—
平成11年	766施設	2,492施設	311施設	2,672施設
平成12年	802施設	—	326施設	—
平成13年	848施設	—	343施設	—
平成14年	924施設	3,192施設	396施設	4,084施設
平成15年	946施設	—	408施設	—
平成16年	970施設	—	411施設	—
平成17年	1,022施設	3,761施設	431施設	5,356施設
平成18年	1,043施設	—	437施設	—
平成19年	1,077施設	—	452施設	—
平成20年	1,056施設	4,044施設	450施設	6,300施設
平成21年	1,085施設	—	444施設	—

＜厚生労働省「医療施設（動態・静態）調査」による＞

※「診療所」は、平成8年、11年、14年、17年、20年の静態調査で把握している。

5

アレルギーの現状について

厚生労働省大臣官房統計情報部が平成16年6月に発表した平成15年保健福祉動向調査（アレルギー様症状）の概況（<http://www.mhlw.go.jp/toukei/index.html>）によると、この1年間に、皮膚、呼吸器及び目鼻の各症状（以下「3症状」という。）のいずれかのアレルギー様症状があった者は全体の35.9%であり、これを性別にみると、男34.3%、女37.4%となっており、女で割合が多くなっている。

また、年齢階級別にみると、男では「5～9歳」が45.8%で最も多く、女では「35～44歳」が44.6%で最も多くなっている。

性・年齢階級別にみたアレルギー様症状の有無とその診断があった者の割合（複数回答）

（単位：％）

平成15年

性 年齢	総数	3症状のいずれかの症状あり				皮膚のアレルギー様症状あり			呼吸器のアレルギー様症状あり			目鼻のアレルギー様症状あり		
		総数	医療機関に入通院		3症状のいずれかの症状もなし	総数	医療機関に入通院		総数	医療機関に入通院		総数	医療機関に入通院	
			総数	1つでもアレルギー診断あり			総数	アレルギー診断あり		総数	アレルギー診断あり		総数	アレルギー診断あり
総数	100.0	35.9	20.9	14.7	59.1	16.4	9.5	5.7	7.5	5.4	2.8	22.6	10.9	9.4
0～4歳	100.0	37.3	33.3	19.7	58.4	26.6	22.2	12.9	13.6	12.7	6.7	9.4	8.5	6.0
5～9	100.0	42.7	34.2	27.6	53.6	25.1	18.4	14.4	12.7	11.7	8.6	22.4	17.5	15.1
10～14	100.0	42.7	28.6	25.8	52.2	17.9	11.4	9.7	9.0	7.9	6.0	30.9	19.2	18.3
15～19	100.0	37.9	20.5	17.8	57.3	14.9	8.8	6.8	5.4	3.5	2.6	28.9	12.7	11.9
20～24	100.0	36.4	18.0	14.3	59.5	16.7	10.1	7.3	4.7	2.5	1.7	24.7	8.7	8.0
25～34	100.0	39.2	19.7	15.1	56.4	16.8	8.4	5.4	6.7	4.6	2.6	27.7	10.9	9.8
35～44	100.0	39.9	19.5	15.9	55.7	16.1	7.2	4.7	6.5	3.6	2.1	29.9	12.7	12.0
45～54	100.0	34.6	17.8	13.3	60.9	14.3	7.1	3.8	5.0	3.0	1.6	24.5	11.0	9.9
55～64	100.0	31.6	17.1	11.4	62.1	12.9	6.6	3.5	6.4	3.8	1.8	20.1	10.0	8.2
65～74	100.0	31.2	19.5	9.8	62.5	15.4	9.1	4.1	8.8	6.3	2.1	15.0	7.7	5.4
75歳以上 (再掲)	100.0	28.4	20.2	6.6	65.0	15.3	10.3	3.4	10.9	8.4	2.0	9.7	5.7	2.5
65歳以上	100.0	30.0	19.8	8.5	63.6	15.4	9.6	3.8	9.7	7.2	2.1	12.8	6.9	4.2
男	100.0	34.3	19.2	13.2	60.7	15.1	8.8	5.2	7.7	5.4	2.8	20.9	9.4	8.0
0～4歳	100.0	39.5	36.3	23.4	56.0	27.6	24.2	15.6	15.7	14.7	8.3	10.9	10.1	7.5
5～9	100.0	45.8	37.7	30.8	51.6	26.0	19.8	15.5	14.4	13.3	10.1	24.9	19.7	17.2
10～14	100.0	43.8	29.6	27.0	51.9	16.2	10.4	8.8	11.2	9.7	7.6	32.5	20.4	19.8
15～19	100.0	39.0	20.3	18.2	56.5	12.1	7.2	5.8	6.4	4.5	3.5	31.0	12.8	12.1
20～24	100.0	32.4	14.3	11.7	62.6	12.5	7.4	5.3	4.8	2.6	1.9	22.2	7.3	7.0
25～34	100.0	34.3	15.1	11.0	60.8	12.8	6.4	4.2	6.0	3.5	1.9	24.4	7.6	6.8
35～44	100.0	35.2	15.6	12.1	60.2	13.4	5.3	3.2	5.9	3.2	1.8	25.4	9.6	8.9
45～54	100.0	29.4	14.1	9.7	66.0	12.0	6.2	2.9	4.5	2.5	1.1	19.5	7.7	6.7
55～64	100.0	29.3	14.1	8.9	64.6	12.0	5.9	3.0	6.0	3.1	1.3	17.6	7.5	6.2
65～74	100.0	32.7	19.7	8.7	60.6	16.7	9.6	3.6	9.4	6.5	1.8	14.7	6.7	4.4
75歳以上 (再掲)	100.0	32.8	22.7	6.6	61.0	18.8	12.3	3.8	12.0	8.9	1.6	10.2	5.7	2.1
65歳以上	100.0	32.8	20.8	7.9	60.8	17.5	10.6	3.6	10.3	7.4	1.7	13.0	6.3	3.6
女	100.0	37.4	22.5	16.2	57.5	17.7	10.1	6.2	7.4	5.4	2.8	24.1	12.3	10.7
0～4歳	100.0	34.6	29.7	15.4	61.3	25.3	19.8	9.9	11.2	10.5	4.9	7.7	6.8	4.4
5～9	100.0	39.7	30.7	24.3	55.6	24.1	17.0	13.2	10.9	10.1	7.1	19.9	15.4	13.0
10～14	100.0	41.6	27.5	24.5	52.6	19.6	12.5	10.6	6.8	6.1	4.5	29.2	18.1	16.8
15～19	100.0	36.9	20.7	17.3	58.1	17.4	10.2	7.6	4.6	2.6	1.8	26.9	12.6	11.7
20～24	100.0	40.2	21.6	16.9	56.5	20.7	12.7	9.2	4.6	2.5	1.5	27.1	10.1	8.9
25～34	100.0	43.9	24.2	19.1	52.2	20.7	10.3	6.4	7.4	5.6	3.3	30.8	14.0	12.8
35～44	100.0	44.6	23.5	19.7	51.2	18.9	9.2	6.2	7.0	4.0	2.5	34.3	15.8	15.0
45～54	100.0	39.7	21.4	16.8	55.9	16.5	7.9	4.7	5.5	3.5	2.0	29.3	14.3	13.1
55～64	100.0	33.8	19.9	13.7	59.6	13.9	7.2	3.9	6.8	4.5	2.3	22.4	12.3	10.1
65～74	100.0	29.8	19.4	10.9	64.2	14.1	8.7	4.7	8.2	6.1	2.4	15.2	8.7	6.2
75歳以上 (再掲)	100.0	25.6	18.6	6.6	67.6	13.1	9.0	3.1	10.3	8.1	2.3	9.3	5.7	2.8
65歳以上	100.0	27.9	19.0	8.9	65.7	13.7	8.8	3.9	9.2	7.0	2.4	12.6	7.3	4.7

注：総数には、不詳を含む。

6

インターネットによる 情報収集について

はじめに

インターネット上で、リウマチ・アレルギー疾患に関する各種の情報が入手できる。ただし、健康に悪影響を及ぼす誤った情報、いわゆる医療ビジネス等のトラブルの原因となる情報など、不適切な情報が蔓延しているのも事実である。

各種の学会等の学術団体の公式ホームページや、公的機関のホームページなどを参考に情報を収集し、保健指導の参考として頂きたい。

以下にその一部を紹介する（順不同）。

○日本リウマチ学会ホームページ

アドレス：<http://www.ryumachi-jp.com/>

運営：（社）日本リウマチ学会

主に学会員向けのホームページであるが、全国のリウマチ専門医の情報など、各種の情報を入手できる。

○日本アレルギー学会ホームページ

アドレス：<http://www.jsaweb.jp/>

運営：（社）日本アレルギー学会

主に学会員向けのホームページであるが、全国のアレルギー専門医の情報など、各種の情報を入手できる。

○日本皮膚科学会ホームページ

アドレス：<http://www.dermatol.or.jp/>

運営：（社）日本皮膚科学会

アトピー性皮膚炎等の皮膚科疾患情報、全国の皮膚科専門医の情報など、各種の情報を入手できる。「アトピー性皮膚炎治療問題委員会」のコーナーには、アトピービジネスによるトラブルの情報も入手できる。

○日本小児アレルギー学会ホームページ

アドレス：<http://www.iscb.net/JSPACI/>

運営：日本小児アレルギー学会

主に学会員向けのホームページであるが、アレルギーQ&Aやマニュアルなど、各種の情報を入手できる。

○リウマチ情報センター（日本リウマチ財団ホームページ）

アドレス：<http://www.rheuma-net.or.jp/>

運営：（財）日本リウマチ財団

リウマチ疾患情報、全国のリウマチ財団登録医の所属する医療機関情報など、各種の情報を入手できる。

○日本アレルギー協会ホームページ

アドレス：<http://www.jaanet.org/>

運営：（財）日本アレルギー協会

アレルギー疾患情報など、各種の情報を入手できる。

○リウマチ・アレルギー情報センター

アドレス：<http://www.allergy.go.jp/>

運営：厚生労働科学研究班

リウマチ・アレルギー疾患情報など、各種の情報提供体制を、厚生労働省研究班において試行中である。

○けんぽれん病院情報

アドレス：<http://www.kenporen-hios.com/>

運営：健康保険組合連合会（健保連）

リウマチ・アレルギー疾患を含めたさまざまな疾患について、疾患名や診療科等から検索することで、各医療機関の特色や可能な検査、専門医の内訳・人数など、各種の情報を入手できる。

○環境省花粉情報サイト（環境省ホームページ）

アドレス：<http://www.env.go.jp/chemi/anzen/kafun/>

運 営：環境省

環境省ホームページ上において、「花粉飛散予測」、「花粉観測」、「花粉症保健指導マニュアル」等、環境省の提供情報とその他花粉関連情報が掲載されている。なお、花粉観測については厚生労働省からデータの一部を提供している。

○食品安全情報（厚生労働省ホームページ）

アドレス：<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/index.html>

運 営：厚生労働省

厚生労働省ホームページ上において、食物アレルギーなど食品安全に関する情報を入手できる。

○アトピー性皮膚炎—よりよい治療のためのEvidence-Based Medicine（EBM）とデータ集—

アドレス：http://www.kyudai-derm.org/atopy_ebm/index.html

運 営：厚生労働科学研究班

厚生労働科学研究費補助金免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業「アトピー性皮膚炎の既存治療法のEBMによる評価と有用な治療法の普及」（主任研究者：九州大学 古江増隆）（平成14～16年度）によるアトピー性皮膚炎の治療のEvidence-Based Medicine（EBM）検索サイト。

○スギ・ヒノキ花粉に関する情報（林野庁ホームページ）

アドレス：<http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/sesakusyoukai/kafun/kafuntop.html>

運 営：林野庁

林野庁ホームページ上において、森林・林業面からの花粉症対策等の情報が掲載されている。

○食品に関する情報（消費者庁ホームページ）

アドレス：<http://www.caa.go.jp/foods/index.html>

運 営：消費者庁

消費者庁ホームページ上において、食品アレルギーにも関連する食品表示に関する情報が掲載されている。